

特定健診、特定保健指導の取り組み (たつの市)

平成25年12月5日(木)
平成25年度兵庫県保険者協議会
特定健診・特定保健指導に関する
事例発表資料

たつの市の概要



- 人口 80,193人(平成25年3月末現在)
【平成17年10月に龍野市、新宮町、揖保川町、御津町が合併】
- 国保加入者数 20,940人
- 加入率26.0%(H25.10.1現在)
- 健康課 保健師14名 管理栄養士2名・栄養士1名
(保健師は各センターに分散配置)
- 健診・保健指導部会として、主に保健師4名・管理栄養士1名が
従事して対応

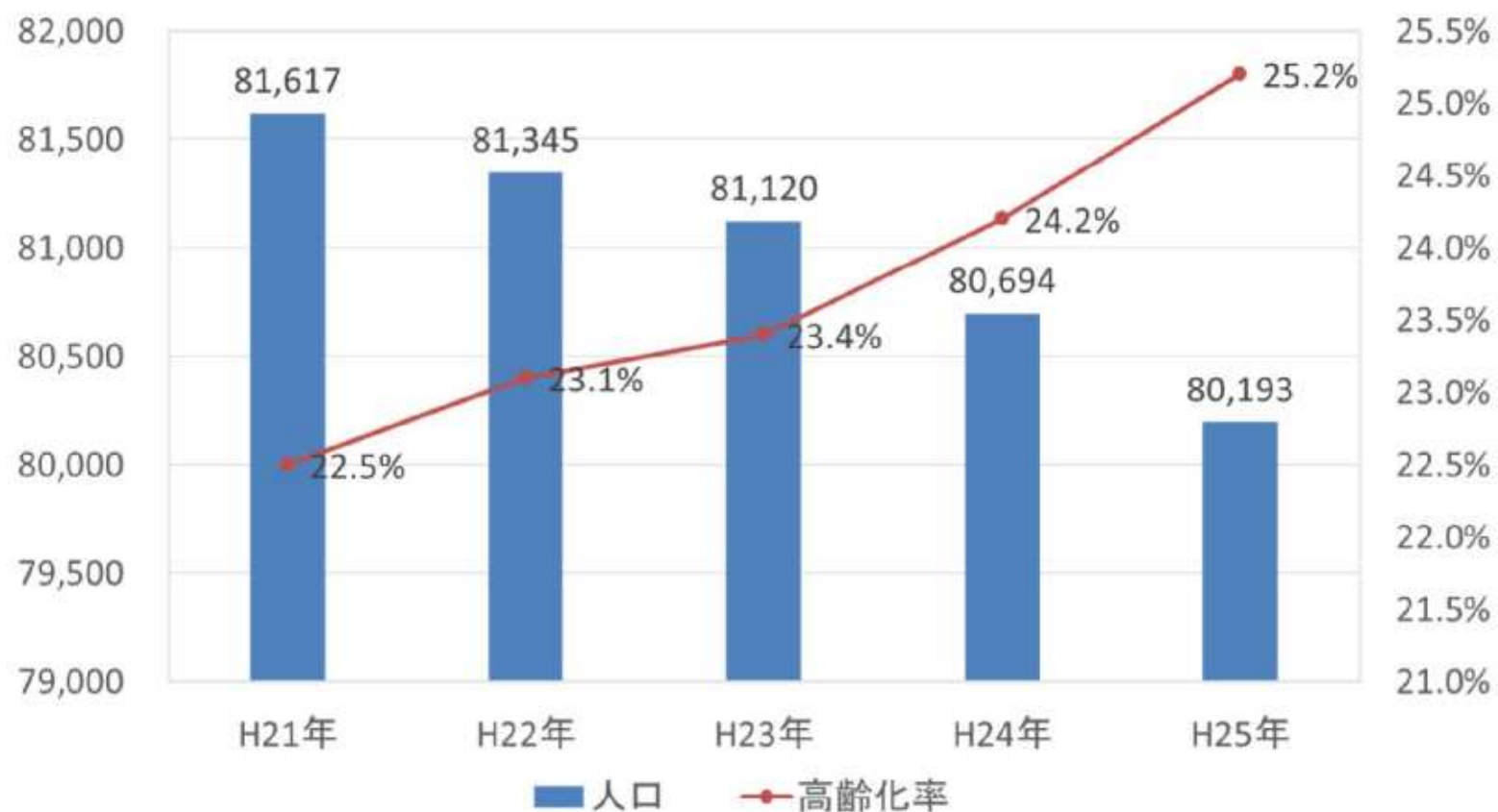


赤トンボくん

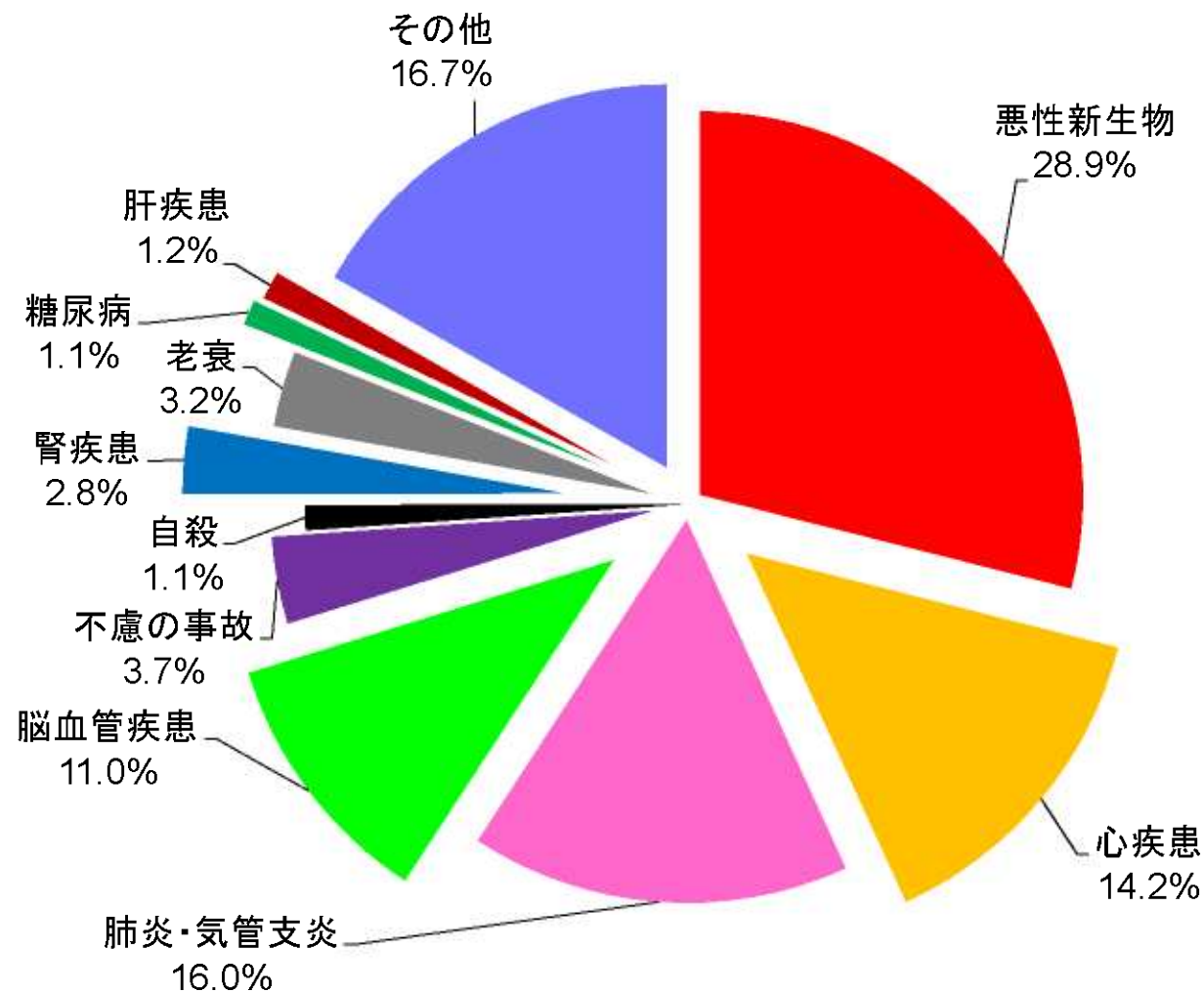


聚遠亭の紅葉

人口と高齢化の推移



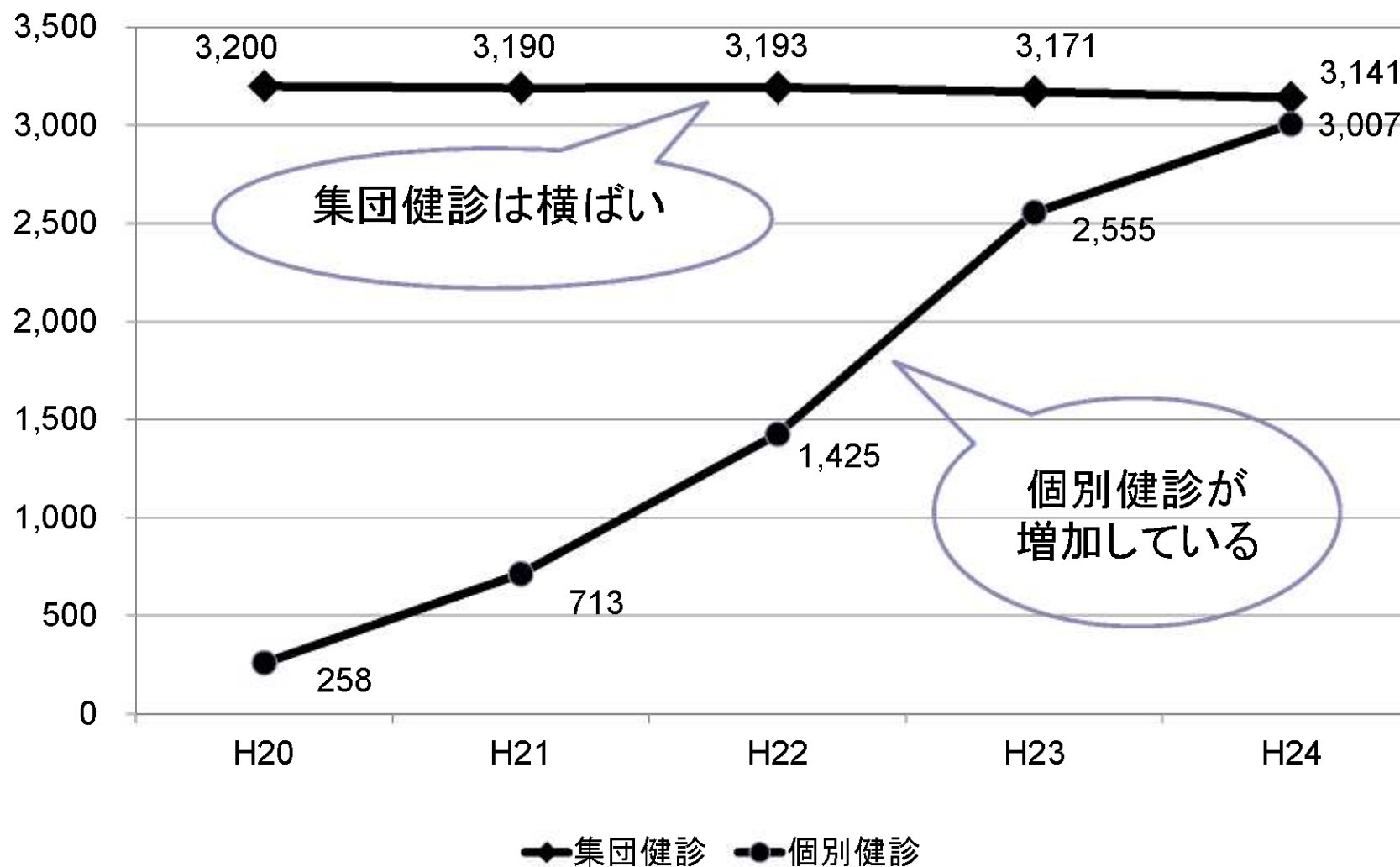
たつの市の死因別死亡割合（平成24年）



特定健診受診者数と受診率の推移



集団健診、個別健診受診者数の推移





受診率アップのための取り組み①

●たつの市・揖保郡医師会との連携

- ・医療機関での定期診療検査の1回分を特定健診として受診
(特定健診検査項目の追加:貧血、尿酸、クレアチニンを平成22年度より)
- ・個別健診の申し込みの簡略化

●未受診者への受診勧奨

- ・在宅保健師による電話勧奨(国保連合会事業)
- ・健康課、国保医療年金課職員で電話勧奨
- ・母子・健康推進委員による戸別受診勧奨(平成23年度)

受診率アップのための取り組み②

●健診の周知

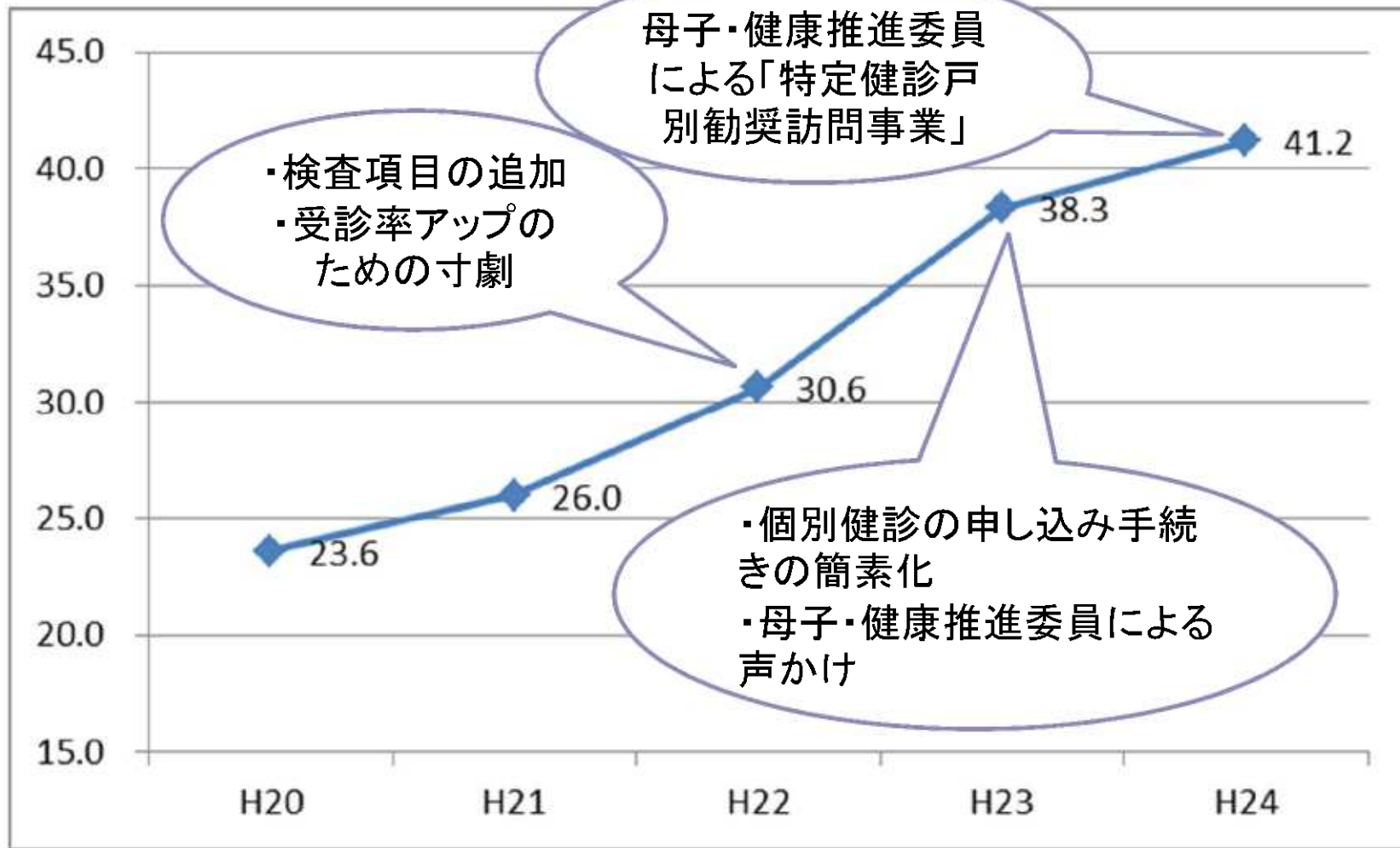
- ・年度当初に特定健診受診券の発送
- ・健診受診キャンペーン・・・母子・健康推進委員会が広報車にて市内巡回
- ・国保広報誌「健康ライフ」、チラシの全戸配布、回覧、ポスターの掲示
- ・まちづくりの集いでの健診PR寸劇、会場入り口での健診啓発ポケットティッシュの作成・配布、各保健センター等にのぼり設置
- ・健康教室、出前講座等の際には必ず健診のPR
- ・受診率の低い自治会での健康座談会を開催し、健診PR
- ・受診率の低い自治会での集団健診の実施
(2自治会：平成24年度)

●その他

- ・人間ドック、職場健診等の結果の提供依頼・・・1500円助成



受診率の推移とその要因





母子・健康推進委員による受診勧奨の取組

母子・健康推進委員とは・・・

- ・市による公募、又は自治会の推薦による市内在住の子育て経験のある方、関心のある方で、満75歳以下の健康な女性で構成
- ・人数：114人（龍野46人、新宮25人、揖保川24人、御津19人）
- ・活動内容：こんにちは赤ちゃん訪問事業、母子保健事業、健康推進事業の協力（各種健診への受診勧奨、教室への参加勧奨、乳がん自己触診PR等）

●平成23年度

母子・健康推進委員によって、担当地区内を自主的に戸別訪問

母子・健康推進委員による「特定健診戸別勧奨訪問事業」の取組（平成24年度）

【内容・流れ】

①委託契約

市国保医療年金課と母子・健康推進委員会の間で個人情報
の取り扱いを含んだ委託契約を締結

②戸別訪問対象者の選定

- ・国保医療年金課が未受診者名簿を作成
- ・推進委員は各保健センターで勧奨対象者名簿を閲覧し、
戸別訪問対象者を選定

③特定健診受診券等関係書類の作成・受領

④勧奨の実施・・・訪問にて勧奨

⑤書類の返却・報告

健診受診勧奨訪問・広報活動



健診、
受けておられますか？



訪問活動

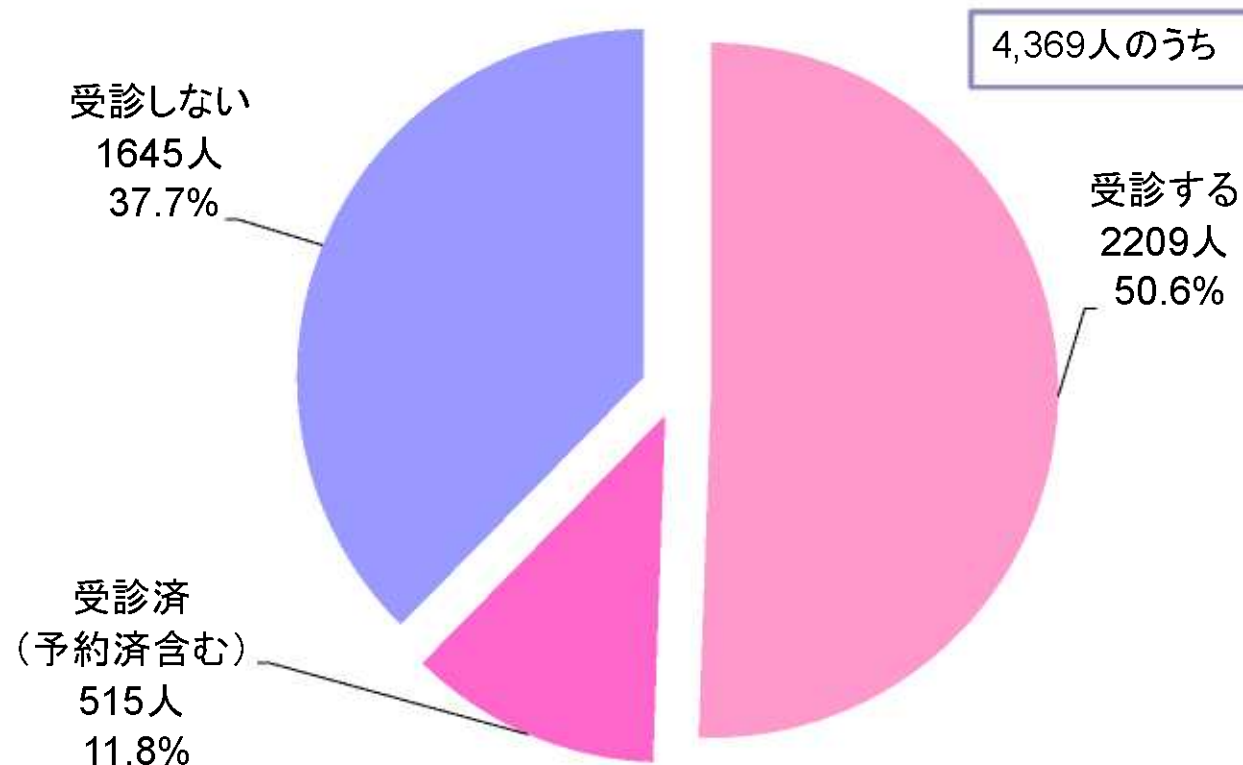


広報活動

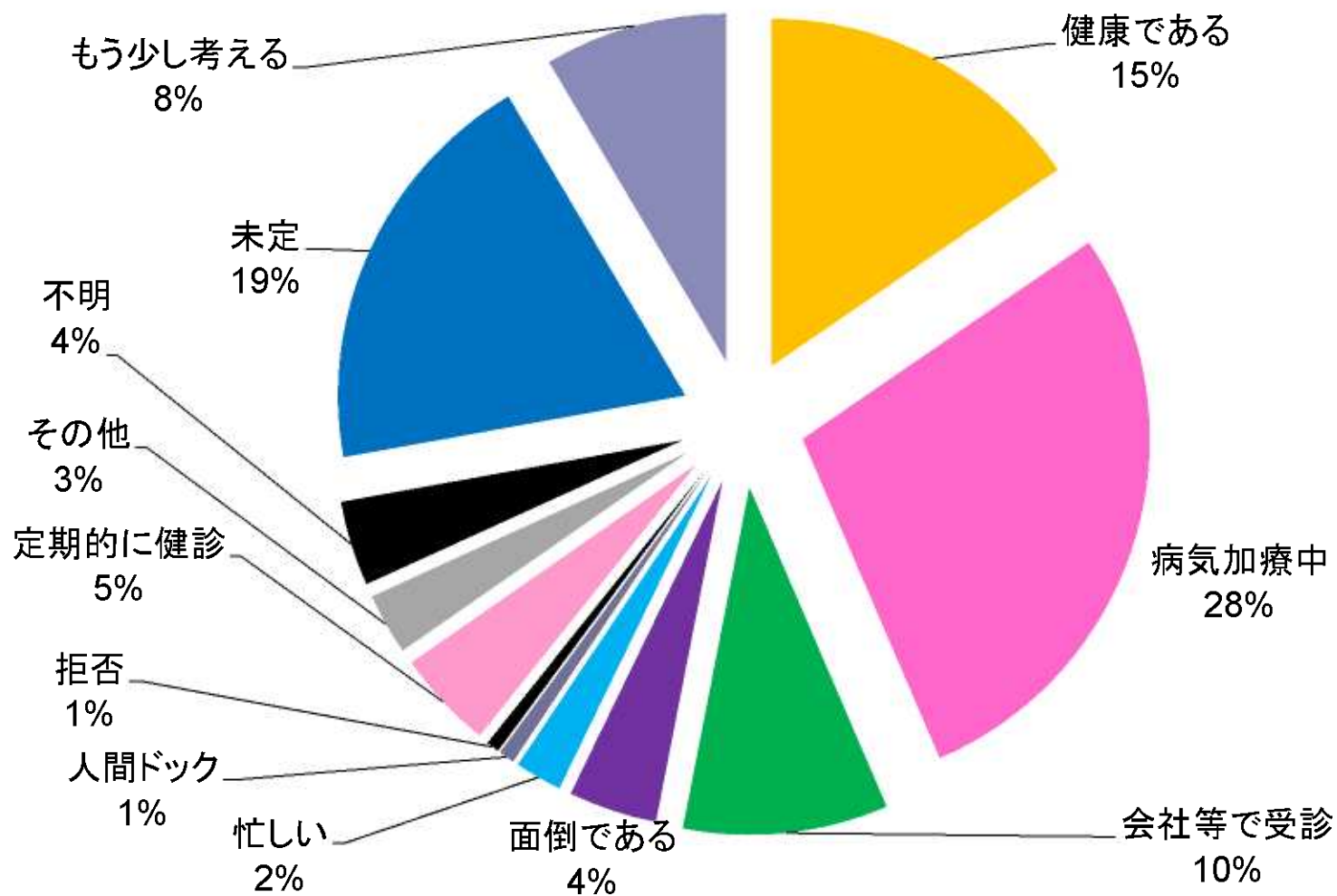
特定健診戸別勧奨事業
訪問件数3007戸

受診勧奨結果

勧奨対象戸数	勧奨戸数	勧奨対象人数	勧奨人数
3,535	3,007件	5,070人	4,369人

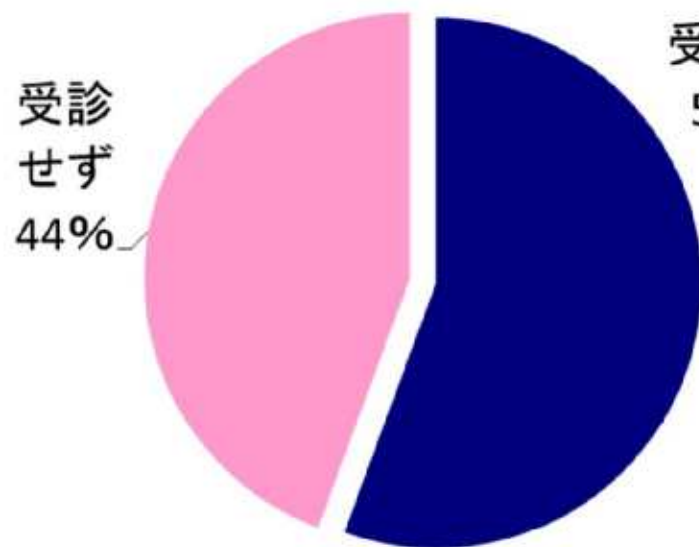


受診しない理由 (1,645人中)



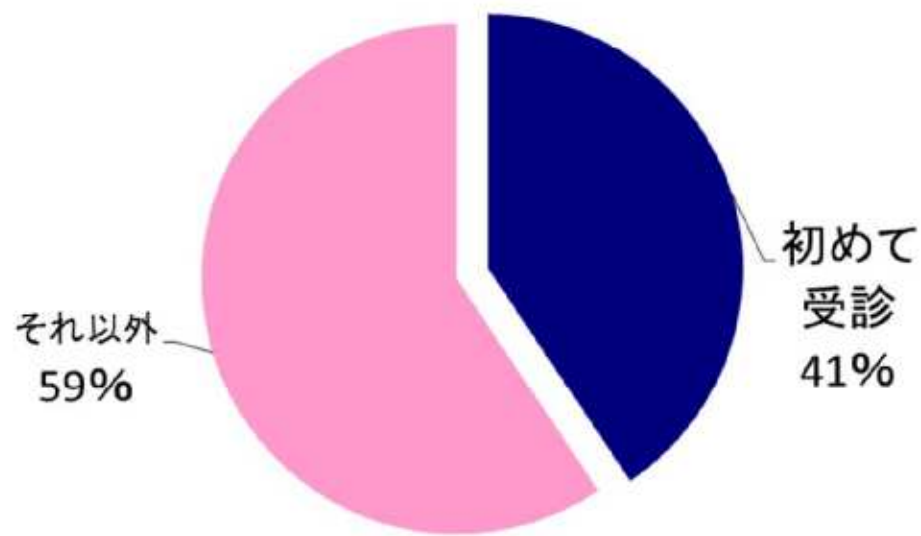
「受診する」と答えた方のその後

受診勧奨後の結果



2,209人

受診済みの人のうち、初めて受診した人





課題

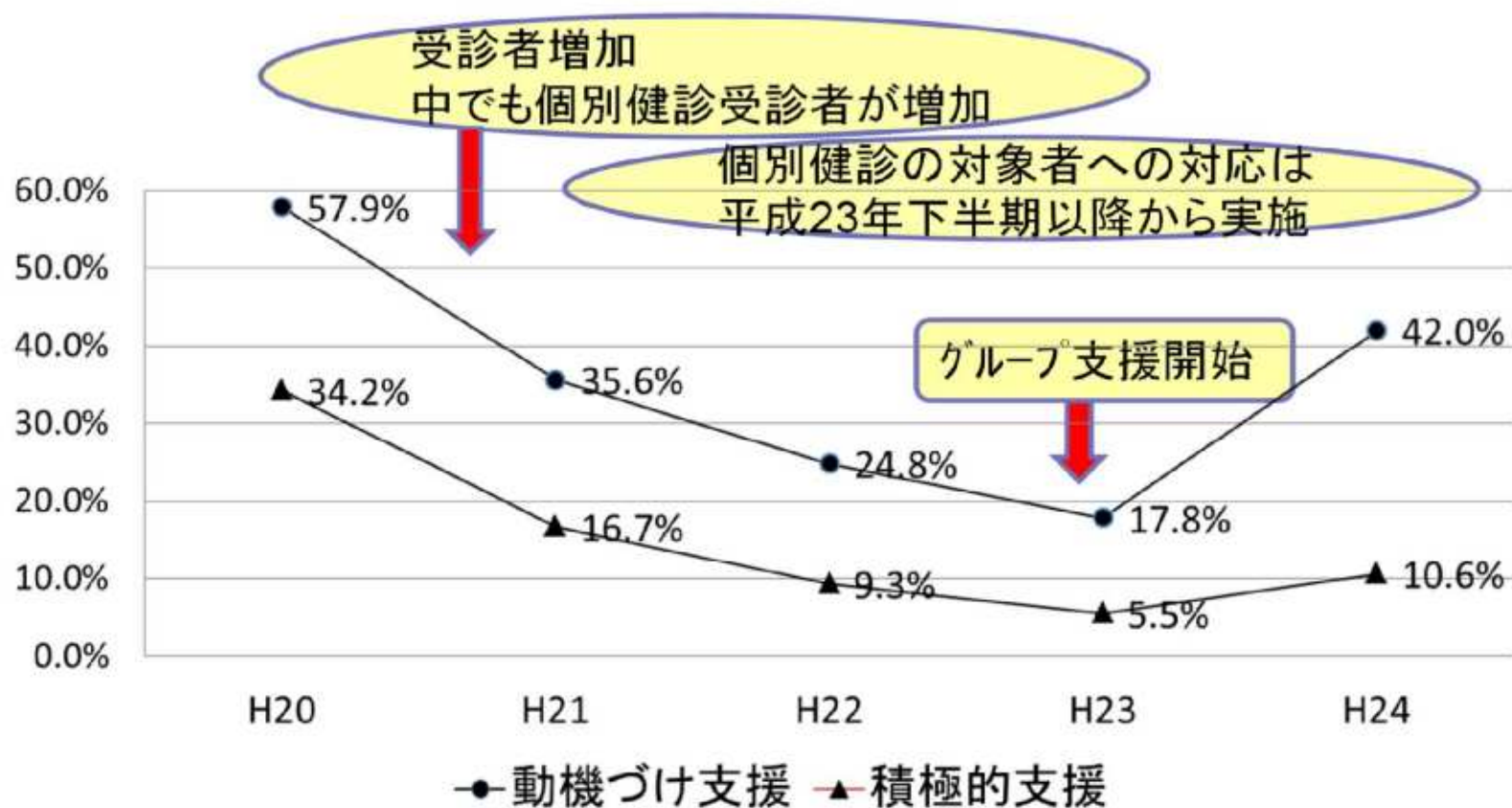
- ・ 集団健診受診者の減少
- ・ 母子・健康推進委員による戸別訪問は単年度事業に終わる
- ・ 働き盛り世代の受診率が低い
- ・ 継続受診につながらない

昨年度初めて受診した方が今年受けていない

・・・「去年受けたから今年はやめておく」

特定保健指導実施率の推移

特定保健指導の実施率は年々減少したが、平成24年度は少し回復
平成24年度で動機づけ支援は42.0%、積極的支援は10.6%



法定報告

グループ支援プログラムを取入れた 特定保健指導（平成23年度より実施）

目的

「自分で気づく」ことを大切にする考え方のもとに、グループワーク形式で、具体的な事例と作業などを通して楽しく健康づくりを実感できる「JNAグループ支援プログラム」を取り入れた「健診結果がわかる会」「楽しく～！ヘルスアップ教室」を実施し、**生活習慣改善**へとつなげていく。

※生活を振り返る指標にHbA1cを用いている

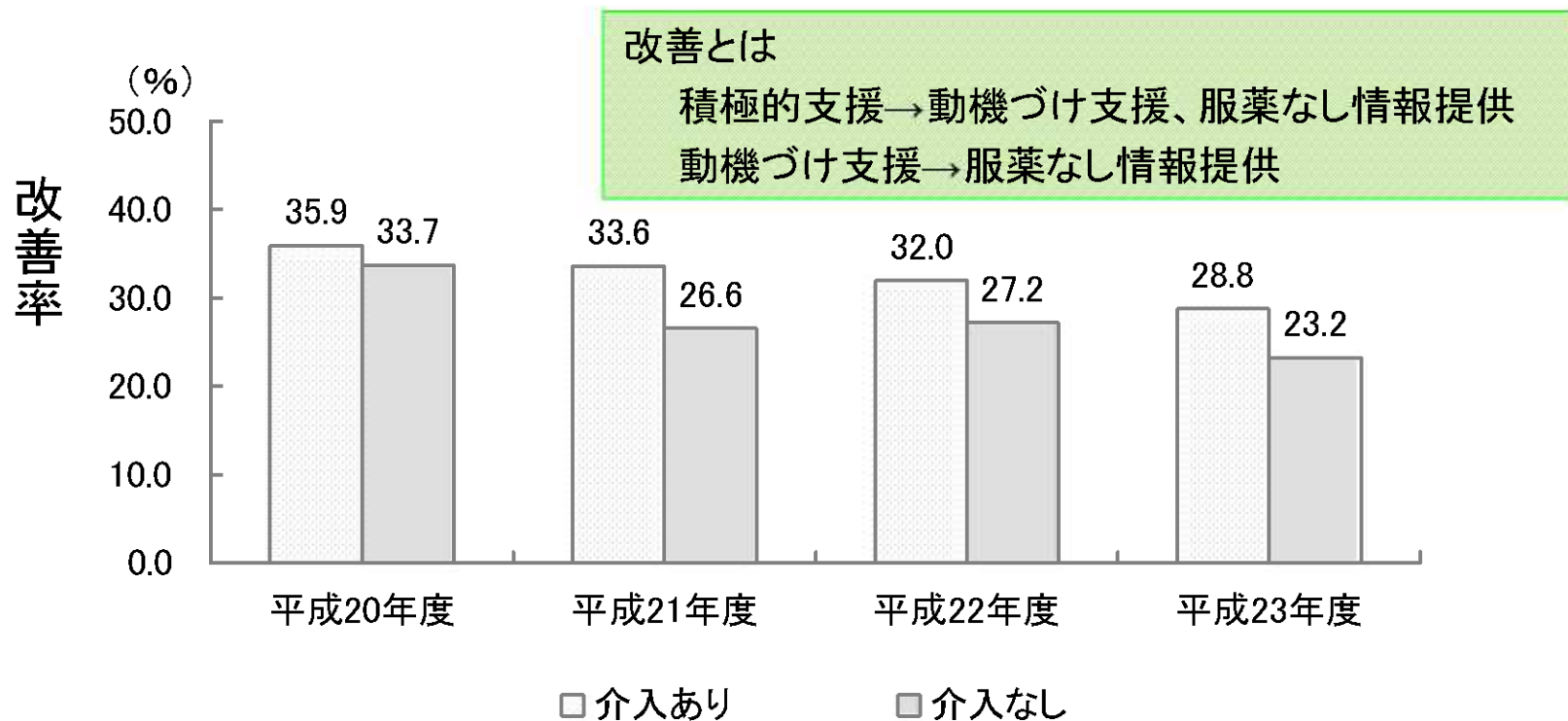
対象

- 特定保健指導対象者 約700人
- 30歳代のメタボ該当者 約25人
- 30～69歳でHbA1c5.9～6.8%の者
(継続医療者・特定保健指導該当者除く)約240人

特定保健指導の介入の有無による判定の改善率



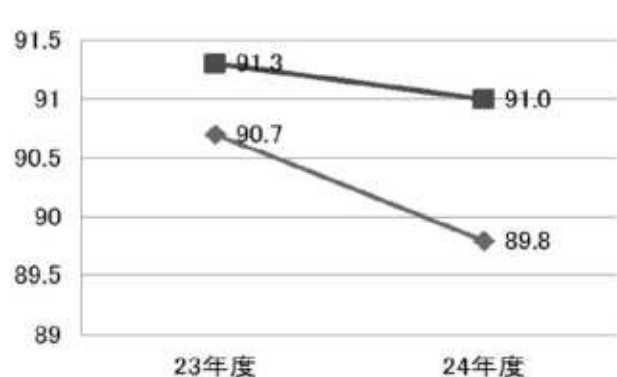
特定保健指導対象者が、介入あり(6か月後評価のある者)と介入なしで、翌年の健診結果の保健指導レベルを比較



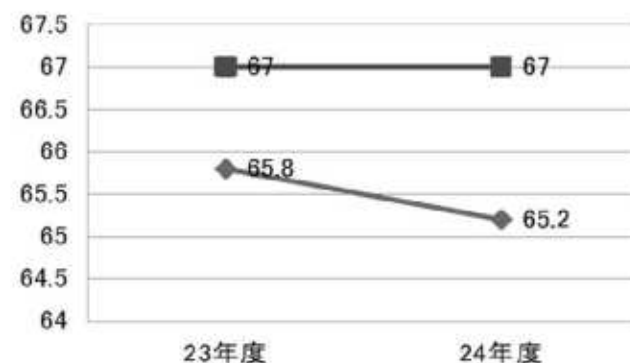
特定保健指導の介入の有無による項目の改善率



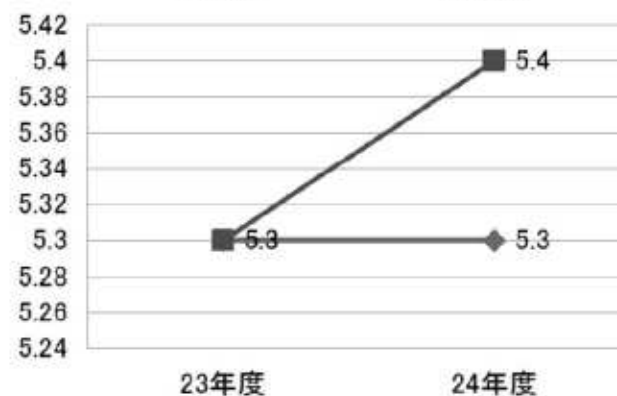
平成23年度特定保健指導対象者が、介入あり(6か月後評価のある者)と介入なしで、翌年の健診結果の項目別結果



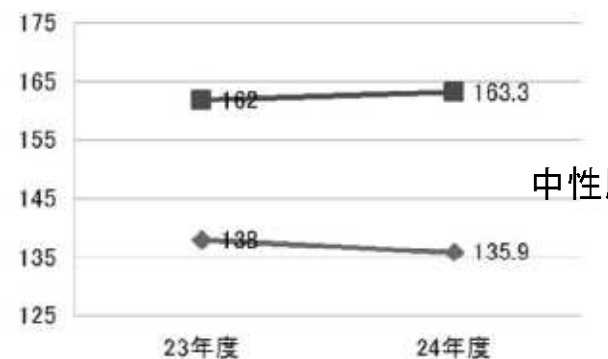
腹 囲



体 重



HbA1c



中性脂肪

◆ 介入あり ■ 介入なし

保健指導の手ごたえと課題

- 平成23年度の実績では保健指導実施率が低い



平成24年度からは初回面接の徹底・・・
教室に参加できない人には個別での支援に切り替えるなど、集団と個別の両方を組み合わせて支援している

【グループ支援を取り入れて】

○スタッフの意識の切り替えが必要

(言いたい、教えたい⇒参加者が自分の生活や健診の結果についてどう思っているのかを発言できるようサポートする)

○以前の個別指導に比べ、対象者が自分の生活を赤裸々に語ることができ、自分のことを話したり他者の話を聞くことで自分のことがわかってくる

○スタッフが指摘しなくても、他者からの刺激、助言により意識が変わり行動変容ができている方もある

○自分のことが意識しにくい人には、個別支援が必要

「健診結果がわかる会」の様子



【保健指導全体の課題】

○個別健診での対象者が増加するが、すでに医療機関で健診結果を受け取っているため、勧奨しても初回面接につながりにくい

○単年度での改善が難しく、毎年同じ人が対象になる。

⇒数年での改善に取り組む必要のある方が多い

○国保加入者における保健指導対象者には、生活困窮者、精神・知的に問題を抱える方も目立ち、訪問等個別での支援も必要である

楽しくヘルスアップ教室「食べ方を見る」の講座の様子



ご清聴ありがとうございました。